

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800075		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	市川グループホーム そよ風		
所在地	千葉県市川市本北方2-27-7		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	平成22年3月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成21年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設2年目を経て、開設時から築けてきた入居者様・ご家族との信頼が更に深まり、今では気軽に要望やご指摘いただけるような関係が築けている。また必要に応じ、携帯メールなどを利用してご家族様との連携を取っている。職員は入居者様のご要望にお応えしたいために、自らより良い支援を求めて真剣に取り組んでいる。その支援の結果に対して皆で喜び合う姿はまさに当社の永遠のテーマである「感動介護」そのものであると自負している。支援の方法はいつも手探りで、その正否は出ないが、判断基準は常に入居者様本位である。当事業書の強みである「安心していただける笑顔」は今現在も引き継がれており、入居者様の笑顔も多くみられる。お好み外出は地道に続けられており、小さな建物であるにも関わらず開放的な雰囲気となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市川学園の近くの閑静な住宅街の中にあるグループホーム専用に新築された開設3年目を迎えるホームである。近くに小学校・公園・スーパーもあり入居者の日常生活にも便利な立地である。センター長の認知症ケアに対するレベルの高い見識の下、夫々のユニット毎に職員が目標理念を練り上げ、法人の永遠のテーマである「感動介護」実現に向け、「その人らしさを尊重し、一瞬一瞬と向き合うことを大切に」し、自然な笑顔で入居者と同じ目線で接している職員の姿が印象的であった。入居者の表情も生き生きとしており、会話も弾み「当たり前前の生活を当たり前前にできている」と感じるほどであった。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさを尊重し、一瞬一瞬と向き合うことを大切に」を柱に置いた。・会議で個々に応じた支援を確認している・入居者様中心の考え方で判断している・職員が笑顔でいられる環境作りをしている	法人のテーマ「感動介護」実現のため、各ユニットで職員自らが、夫々独自の目標理念を創り上げ実践に努めている。「その人らしさを尊重し一瞬一瞬を大切に」入居者と過ごし、「生活こそが目的をもった最大のリハビリ」との考えの下、自立した生活を長く持続していただく介護を実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中に立ち寄りの方々を大切にしている ・散歩中にご近所の方々と交流している ・七夕の笹を玄関にたて、短冊と筆を置いた ・職員が積極的に挨拶や声掛けをしている	職員の地域密着の意識の賜物で漸く自治会に加入が認められ、第一歩が踏み出せた。散歩中に落の臺を頂いたり、車椅子を寄付していただいたりと徐々に地域の方々に認められてきた。昨年は七夕の短冊を200枚も書かれていた。	自治会を通して回覧板の活用や行事への参加やホームへの来訪を促す活動、又、近くの学校とも連携し学習活動の一環として来訪を促進する等、地域の一員として日常的な交流を進めていかれることを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者からの空き状況の問い合わせにも現状のお悩みにお答えし共感している。 ・他施設の情報を積極的に提供している ・他施設のケアマネジャーに紹介している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では苦情の報告を「ご忠告と提言」と表して対処策や実践状況と共に報告している。 ・会議内容を職員に報告し勉強会を開催 ・指摘を受けた事を早期に改善している	奇数月の第三日曜日に市職員・民生委員・自治会副会長・家族等の出席を得て定期的に開催している。入居者の状況、外部評価報告は勿論事故報告もしている。「事故は即日連絡すべし」との提言を受け早速実施したり、会議内容を職員と共有し、サービスの向上に良く活用している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課との連携を密にし、運営推進会議にも出席していただいている。 ・ノロ感染や事故以外も連絡を密にしている(ボランティア団体を紹介して頂くなど)	介護保険課担当者とは毎月2・3回お会いし、支援方法や運営方法など入居者様・ご家族様の利益を守る立場から色々とおアドバイスを頂いている。運営推進会議議事録も毎回お届けし、具体的な提言をしていただき、ボランティアを紹介いただいたりと良く連携が取れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生活時間帯は各フロアの鍵を開錠し、自由に往来できるよう改善されている ・ご家族が望まれた四点柵に対し、職員が積極的に話し合い、様子観察後の報告を通して柵を外すことを了承していただいた	センター長初め全ての職員が、禁止対象となる身体拘束の具体的な内容も良く理解しており、身体拘束をしないケアの大切さの認識度も高い。昨年の評価で指摘を受けた各フロアも解錠されており自由に往来できるよう改善されている。	設備上の変更も含め、職員の見守りの行き届く時間帯等安全性を考慮しながら、時間を区切って日中の玄関の鍵の開錠を試行されることを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が心に余裕を持てる環境作り ・箸を最後にセットするサービス提供について話し合いをし、虐待に繋がる行為を廃した ・虐待に繋がる言葉や態度を指摘し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の理解への取り組みは行なえていない ・成年後見人の養成・支援団体の研修受入れを通して、スタッフに成年後見人に対する動機付けを行った。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	金銭や起こりうるリスク、医療連携体制などについては特に慎重に説明をしている。 ・退去を含めた事業書の対応可能な範囲について説明している・契約時には苦情の承り先を提示している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情処理」「クレーム処理」など、入居者様から逃げる言葉を廃し、「ご忠告と提言」と唱って誠実に承り、ご本人はもとより運営推進会議でも報告しながら対処、改善の説明を添えて報告している。	毎月の写真新入りの近況報告に暮らしぶりや行事報告とともに成果と課題などを担当職員が手書きして報告し家族にも喜ばれている。家族も忌憚のない意見を言える信頼関係が出来つつある。入居者の「ボツリ」とした一言を聞き逃さないようにし報告を受け、即座に改善するようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	雇用形態の差別なくプロジェクトチームを編成し、ユニット運営の中心的存在として位置付けている。また、支援方法の改善意見はカンファレンスシートにて提出し、CMとスタッフ間で決定している	異動した職員に直接電話で話してもらおう等、ダメージを最小限にするよう工夫している。ユニットミーティングやセンター長との個別面談で提案や要望が気楽に言え、運営にも良く反映されている。コミュニティーノートに介護についての「つぶやき」メモをログ的に記入し感動を共有する等良くチームワークが取れている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に希望を提出できる状態にある ・その人に合ったレベルアップを求め、共に達成感を味わうことができている ・有期雇用形態を徹底し、その都度、面談を行い給与水準の調整を図っている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH会議の勉強会に参加している ・各団体の研修情報を掲示している ・コミュニティーノートで情報交換している ・現場で支援方法を指導し合っている ・DVDや書物などを回覧し合っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の訪問や講習会参加を呼び掛けている ・他施設の職員を招待し、交流を図っている ・前職場との交流を多く持ち、情報交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望に対し、報告を心掛けている ・不安や要望を職員全員が把握している ・不安や要望に対して支援の立場から考慮し、カンファレンスシートを活用して解消、改善に向けている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントで不安や要望を把握している ・必要に応じてメールで随時状況を報告し、ご家族と共に支援を行っている ・見学時にも相談できる環境を作っている ・面会時に相談できる機会を設けている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な方へのマッサージ師の導入 ・協力医療機関に不信感を抱く方に評判の良い歯科医を紹介し喜んでいただいている ・必要時には担当者会議を開催し、ご家族とともに支援方法を決めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が人生の先輩に教えて頂くという姿勢を持っている為、自然に関係が築けている ・食事作りのポイントを教わっている ・市川周辺の歴史を教わっている ・一緒に梅干し作りやハリハリを作っている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の提案による処置を実践している ・「認知症状が現れる以前に拒否されていた」方のインフルエンザ予防接種等はご家族とよく話し合って決定している		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了解のもと、ご友人との外食を自由にしていただいている ・馴染みの店へ買い物へ行っている ・個別に自宅周辺のドライブを実施 ・双方の電話の取次ぎを気軽に行っている	昔の近所の友人が来て食事に誘われたり、ドライブで入居者の自宅近くに行きそこにある柿の木の話で他の入居者と昔話をしたり、入居者の近所のスーパーで幼馴染と昔話に花を咲かせたりと馴染みの人や場との関係を良く支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両者の会話がスムーズに行かない時はスタッフが介入し関係作りを支援している ・周囲への声掛け等、関わり合える環境作り ・入居者様同士の現在の関係を把握し、状況に応じた介入をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同居のために退居した方に対し、便失禁時の処置方法や立ち上がり時の介助方法について助言し、今後の質問にも応じる旨を伝えている・入居できなかった方のその後の支援をしている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、何気なくされる会話から不満や希望を察知し、カンファレンスを実施している ・お好み外出を活用し、本人の希望に沿った外出をしている(映画・寿司店・甘味処・温泉など)	1ヶ月おきのモニタリング時に居室担当者を中心に入居者本人の思い、家族の思いや意向についてカンファレンスをし把握に努めている。また、日々何気なくされる会話から不満や希望を察知し、ミニカンファレンスを実施し、ケアサービスに繋げるようにしている。	センター長は、個々の職員が知りえた情報をもとに入居者さんの自分史作成を検討しているとのことである。入居者の思いや意向を更に把握するとともに職員間で共有できる試みであり、実現されることを期待します。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調やアセスメント等で生活歴・生活環境の把握に努めている・会話から知り得た情報をコミュニティーノートなどに書き込み、職員間で共有している・寝言や独り言の内容にも耳を傾けている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「出来ない事」の固定概念を持たず、いつも可能性を信じて支援にあたっている・見守りの中で自分で出来る事はして頂く(放置と尊重の境界を検討しながら)その人のペースに合わせた生活を大切にしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、ご家族を含めた担当者会議を開催している・居担を中心とした職員間の意見や発想は報告やカンファレンスシートによってケアマネジャーの介護計画に反映させている	「全職員がコミュニティーノート」を書き込み、随時利用者の変化が自由に書き込めるようになっている。その意見が介護計画の作成に繋がっている。モニタリング時は長期目標や短期目標通り、達成できたかを検討し、長期目標や短期目標の設定が適正か検討している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に些細な変化も記録し、日誌に反映させて情報を共有化している ・職員の「気づき」は共有し、支援の工夫や試みはカンファレンスシートを提示後、職員で話し合っている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・介護計画作成後では間に合わない支援や、帰宅の遅いご家族には携帯メールを活用している ・「今行きたい・今食べたい」のご要望には、お好み外出等でお応えしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に住むボランティアの協力を得て「押し花アート」教室を開催している ・地域の寿司店と馴染みを持ち、店主との会話を楽しみながら食せる場を確保している ・遊水地にて自然に触れ合っている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時は、ご家族が立ち会える ・症状やご家族のご要望に合わせ、他の医療機関での受診も支援している ・協力医療機関以外のかかりつけ医とも積極的に連携をとり、往診を依頼している	月に2回提携医の往診がある。受診前に「往診前状況報告」をし、受信の結果を「往診状況報告書」記録し、全スタッフが見て確認印を押し、情報の共有を図っている。診療情報提供書を毎月家族に送っている。勿論他の医療機関への受診の支援も行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、医療提携は結んでいないが、訪問病院の看護師との連携はできている ・口頭で伝えることが難しい湿疹や傷などは写メールにて即座に看護師に送信し判断を仰いでいる		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の希望や特別な医療機関を要しない限りは、協力医療機関として定めている病院を利用し、連携をとっている ・詳細な症状の説明が必要な場合には、職員が同行して説明し、相談をしている ・施設独自の情報提供書を活用している		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に行うべき終末期の合意書などの取り交わしはできていない ・運営推進会議などで終末期の在り方や事業所としての姿勢を伝えはじめている ・現在、終末期における双方の意思確認のため、合意書を作成し検討中である	終末期に向けた方針の共有は十分ではない。今、医療提携契約締結を目指している。運営推進会議でも議題として取り上げ、終末期ケア合意書を作成中である。ターミナルケアについて職員研修をし、方針の共有と支援方法を確立してゆきたいとのことである。	今出来ることとこれから目指してゆくことを明確にし、法人全体としての体制作りとともに、ホーム内でターミナルケアについての研修・話し合いを通して、終末期に向けた支援の方針を早く確立し・共有することを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命や上級救命講習会の情報を提供し、職員に呼び掛けている ・応急手当や対応中に、その場にいる職員には手順を見せて説明している ・個別の緊急対応マニュアルを準備している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いの避難訓練は実践できていない。 ・地域住民より、避難経路などを聞いて情報を収集している ・7名の職員が駆けつける体制をとっている ・備蓄の準備を早急に行いたい	自主避難訓練を実施し、報告書も作成し、7名の職員が駆け付ける体制をとっている。地域住民、消防署立ち会いの避難訓練を未だ実施できておらず、早急を実施する予定である。災害時の備蓄も十分とは言えない。	消防署立ち会いの防災訓練を早急に実現し、その機会に地域住民の方々にも声掛けし参加していただくと共に避難経路・入居者の避難状況・特に夜間の職員体制等の報告書を近隣に配布する等地域との協力体制を築くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心を開いて頂ける声掛けを心がけている ・入居者様を人生の先輩として尊敬している 職員が多く、言葉や姿勢にも表れているが、馴れ馴れしい言葉遣いを使う事も多い ・言葉遣いや姿勢を注意し合っている	朝礼で「ダメ言葉は駄目、上から目線は駄目」など常に注意し合っている。職員がが入居者に料理等教わったり人生の先輩として、自然な形で尊敬している姿が良く見られる。職員が居室に入る時も必ず挨拶をして、居室に入る。個人情報についても万全な体制が整っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志決定が困難な場合も、二者択一にする等、選択ができるよう工夫している ・誰にでも希望を言える関係を築くよう努めている ・入浴の準備を入居者様行っている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を拒まれる時がある方には、タイミングを計って「うどん」を作ってお持ちするなど、労力を厭わない職員が多い ・午後には疲れが見られる方について、現在、午前中に入浴をしていただいている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・希望に応じて訪問理美容を利用している ・洋服やパジャマの購入は好みを理解しているご家族に依頼しているが、「お好み外出」で職員と買い物に出掛ける事もある ・鏡を見る機会を多く作り意識づけを工夫		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食べたくなった」物を一品添える事がある ・個々の力に応じた調理法を工夫している ・全工程をお任せする機会も増えている ・料理人を招致し本格的な料理等を楽しむ機会を設けている(オムライスバイキング等)	入居者と一緒に調理・配膳・片づけ等をしながら、職員も一緒に楽しく食事をしている。ボランティアで料理人、パーテナー、すし職人を招いて、利用者が楽しく食事する工夫をしている。利用者の希望する時はお好み外食として食べに行くことも良くある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の摂取量を週間表に記入している ・必要量を摂取できない方は家族や主治医の協力を得て栄養の確保を行っている ・個人に合わせて小さく切ったり、盛付けに工夫をして食しやすくしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を外した歯磨きの声掛けを行っている ・自分で行う方の見守りや磨き残し部分の介助ができていない ・定期的に歯科医による口腔ケアを依頼しているが未受診の方のケアができていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁が目立ってきた方に、すぐにパット使用を考えるのではなく、尿意の有無や排泄パターンを観察して声掛けを行っている・排泄パターンが掴めていない方は、排泄チェック表で確認し、声掛けに努めている	おむつ着用はゼロ、失禁が目立ってきた方に、すぐにパット使用を考えるのではなく、尿意の有無や排泄パターンを観察して声掛けを行っている。排泄パターンが掴めていない方は、排泄チェック表で確認し、声掛けに努めている	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ジャーを用意し水分を取りやすくしている ・申し送りで便秘者の報告をしている ・便秘の方に牛乳の摂取を促している ・繊維食品を好まない方に野菜ジュースをご用意している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯決めているのが現状であるが柔軟に対応もしている部分もある・体調や気分により入浴者を交替している・疲れやすい方が午前に入浴をしている・拒否のある方は特に時間を決めていない	入浴出来る時間帯を原則として決めているが、体調や本人の希望には添えるようにしている。週に3回入浴出来る。入浴拒否の方は毎日声かけをし、時間を問わずその気になった時に上手く入浴に導いている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床は入居者様に合わせている ・冬場は足浴をする等安眠に努めている ・乾燥時期にはバスタオルを濡らして心地よい香りをつけ、各部屋へ置いている ・不安を訴える方の傾聴をしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更した薬の情報を提供している ・配薬準備をする袋に効果や用法、副作用などを添付している ・いつ、何故、服用を開始し、何故中止したかが把握できる管理表を作成中である		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	固定概念を持たず、得意分野を探っている・知り得た趣味や好みの情報は共有しているが、時として伝達されていない事もある・家庭菜園・花壇作りなど、好みを知り得た時点で、その環境を提供できている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員配置が可能な限り、入居者様の希望に合わせた外出ができています ・気軽にドライブをする機会が増えている ・突然のご家族との散歩や外食・外泊等も自由に行っていただいている	毎朝散歩にも行っており、近所の公園などに行き、外気に触れて五感刺激をするとともに筋力低下防止を図っている。入居者の希望に合わせたお好み外出で、動植物園やカラオケ、ステーキハウスな等多様に外出できるようになっている。出来れば今後一泊旅行を実現したいとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人のお小遣いを持ってスーパーへ買い物にでかけている・2名の方がご自身で金銭管理を行っている・バザーを開催し、売り手との値段交渉や購入する事の楽しさを味わっていただいた		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手先に支障がない限り、事務所の電話を直接使用していただいている・ご家族やご友人からの電話には気軽に取り次ぎを行っている・葉書作りを通して手紙を書く機会を作っている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたカレンダーを作り装飾している・柚子湯、菖蒲湯など、季節の湯を楽しんでいただいている・入居者様が庭で育てた花を切り、飾っている・風呂上がりのエアコンの風による寒さを電気ストーブの併用で解消している	家族的な雰囲気の空間作りを大切にしている。カーテンの色を工夫し穏やかな雰囲気にしている。テーブルを中心に利用者の会話が弾んでいる。庭で季節の花や野菜を育てたり、パラソル付きのベンチでお茶をしたりと工夫を凝らしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー内に、ソファーとダイニングテーブルを配置し、思い思いの場所に座って過ごしていただいている 夏場にはパラソル付きのテーブルを庭に置いて寛いでいただいている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用されていた家具などを自由にお持ちいただき、馴染みの空間作りに配慮している・入居者様の生活スタイルの変化や動線の変化を観察し、快適に過ごせる配置を工夫している・自室が分かるよう入り口に顔写真を飾っている	居室は利用者が慣れ親しんだ家具やアルバムなど自由に持ち込め、馴染みの空間づくりに配慮している。原則洋間だが、畳敷きにしている入居者もいる。大きなクローゼットが備え付けであり、利用者が持ち込んだ物を良く収容できる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	排泄後の手順を張り紙する等、入居者様が個室で混乱されないように配慮している 入居者様が使用する道具(事務用品など)は定位置に固定している		